

「鎌倉市テニス協会」設立の経緯と現状

1. 鎌倉市テニス協会設立の経緯

鎌倉のテニスの歴史は古く、由比ガ浜にあった海浜ホテルの敷地内に1面のテニスコートが作られホテルの宿泊客や鎌倉の文化人達の間でテニスが始まりましたのは、大正9年(1920年)のことである。その翌年にはコートが3面になり大正12年に第1回鎌倉テニストーナメントが開催された。

従って鎌倉におけるテニスの歴史としては、現在に至るまで八十余年に渡る長い歴史を有するものである。

一方「日本テニス協会」及び「関東支部」の設立は、前記鎌倉オープントーナメント開催の前年即ち大正11年であり、平成15年に80周年を迎えた。

また「神奈川県テニス協会」は約30年遅れて昭和27年(1952年)に設立されている。

しかし当時は鎌倉市の場合、テニス協会の組織はなく、各クラブあるいは実業団が直接それぞれ「神奈川県テニス協会」の構成員となっていた。

このような時代が長く続いていたが、昭和50年頃から全国的に「テニス協会」の組織強化の機運が盛り上がり、日本協会 関東協会 県協会 郡市協会という組織作りが不可欠となり、昭和51年(1976年)に鎌倉ローン及び鎌倉宮カントリー両クラブが中心となって市関係者らと協力し、「鎌倉市テニス協会」(当時の名称は鎌倉市庭球協会、昭和55年に鎌倉市テニス協会と改称)を発足させた。

発足当初は僅かであった加盟団体も関係者の努力によって徐々に増加し、平成18年12月現在、クラブ9・実業団10・同好会3、合計22団体、構成メンバー約3700名を擁している。

2. 「鎌倉市テニス協会」の位置付け

(1) 神奈川県テニス協会の下部組織である

県協会の傘下には、23の郡市町協会並びに中学校庭球連盟、高等学校体育連盟テニス専門部、神奈川県女子テニス連盟がある。

鎌倉市テニス協会からは、県協会に評議員として左近秀俊会長を、理事総務委員として平野健理事長、理事実業団副委員長として吉田清副理事長を、指導普及委員として森真一郎理事を、行事委員として楠原義宏理事を、レイティング委員として澤田誠理事を、実業団委員として岡崎弘毅委員を派遣している。

因みに県テニス協会においては、現在鎌倉ローンテニス倶楽部の会員である岩淵元氏が会長を務めている。

(2) 鎌倉市体育協会の構成員である

構成員として、野球、卓球、水泳、柔道、剣道、弓道等々計30の協会があり、テニス協会もその一員であり、テニス協会から左近会長を常任理事として、また平野理事長を理事として市体育協会に派遣している。

3. 鎌倉市テニス協会の仕事

前記の如く、神奈川県テニス協会並びに鎌倉市体育協会とのパイプ役としての役割を果たしつつ、市内の各種行事に関する計画並びにその円滑な運営に努めている。なお運営に当たっての役員数は現在、会長、副会長、理事長、副理事長各1名、理事8名、監事1名、事業運営委員6名（一部理事兼任）となっている。

(1) 年会費の収支管理

加盟団体より納入される年会費について、公正且つ有効な管理運営を行い、定時総会において収支報告を行う。

(2) 加盟団体の新規加入に関する受付

市内に所在するクラブ・同好会・実業団の新規加入については随時受け付けている。

(3) 鎌倉市体育協会に対する「表彰者の申請」

市体協は、毎年傘下各協会の功労者、優秀選手（全国3位以内、関東2位以内、県下優勝）の表彰を行っており、テニス協会として表彰対象者の申請を行う。

(4) 市営コートの予約

毎年開催される「鎌倉市民大会」「市内クラブ対抗」「鎌倉トーナメント」「熊谷杯トーナメント」において、笛田公園並びに西御門のテニスコートを使用しているが、これらの使用に際しては前年11月に「使用計画書」を鎌倉市教育委員会スポーツ課宛提出し、その許可を得ることとなっている。

(5) 「鎌倉市テニス協会ホームページ」の運営管理

平成15年4月に開設以来、会長挨拶をはじめ、協会会則・会員名簿・役員一覧・年間行事予定・加盟団体の紹介・各種トーナメント情報（要項・結果など）などを掲載し広報活動に努めている。

(6) 神奈川県選手権エントリーの取り纏め

毎年4月下旬から5月上旬にかけて行われる県選手権の申込みに当たり、全種目とも当協会を取り纏め、県協会へ送り込む。

(7) 鎌倉市民大会要項の「広報かまくら」への掲載依頼

市民への広報の為、原稿を教育委員会へ提出し、掲載を依頼する。

(8) 補助金並びに市長杯の申請

市民大会の開催に当たり、補助金と優勝者に贈呈する市長杯の支給申請をすると共に、大会終了後収支報告を行う。

(9) 鎌倉市体育協会宛報告

毎年4月、前年度行事報告書・収支決算書及び当年度行事計画書・予算書を提出する。

4. その他

(1) 市営コートの施設充実について

鎌倉市営のテニスコートとしては僅かに笛田公園にクレートコートが4面あるのみ（西御門コートは国営）で、近隣諸都市に比べ遥かに少ないのが現状である。

（因みに藤沢市19面、平塚市22面、横須賀市38面、小田原市29面等）

その為市営コートの予約を取るのが大変困難であり、以前より多くの市民テニス愛好者からコート増設の希望が寄せられており、又市民大会その他トーナメント開催に当たっても市営コートだけでは到底消化しきれず、民間クラブコートの借用を余儀なくされている。

このような現状に鑑み、平成16年年2月より石渡市長並びに三菱電機出身の市議会議員古屋氏（平成18年退任、後任は山田直人氏）と面会し増設の願いを続けており、市議会において正式議題として取り上げて頂く予定になっている。

なお同時にコート使用の稼働率を高める為、笛田公園コートの「砂入り人工芝コート」へのサーフェスの張り替えも要請している。

また国営の西御門コートについても、クラブハウスの建替え、駐車場の完備などのお願いも合わせて行った。

（2）実業団関係について

従来より神奈川県内においては圧倒的な強さを誇っていた三菱電機としては、日本リーグ入りが長年の夢であったが、平成12年秋全国実業団対抗において見事優勝を果たし念願の「日本リーグ入り」を実現させた。

その後毎年、北日本物産、ソニー、ミキプルーン等有力チームと優勝争いを演じ現在に至っている。

（3）クラブ関係について

神奈川県クラブ対抗戦（男子一般、35才以上、45才以上、55歳以上、女子一般、35才以上、45才以上、いずれもダブルス計7ポイント）が始まったのは昭和54年であるが、平成18年まで27回を数えたこの大会において、鎌倉市代表のクラブは毎年その実力を遺憾無く発揮し、17回の優勝（鎌倉ローン10回、鎌倉宮カントリー7回）を誇っている。尚あとの10回については、横浜市代表5回、相模原市代表3回、川崎市代表・茅ヶ崎市代表各1回の優勝となっている。

（4）市内各クラブの交流

上記「県クラブ対抗」とは別に、鎌倉市内各クラブの交流親睦を主な目的として平成6年に第1回鎌倉市クラブ対抗戦が開催された。平成18年第13回目を迎え、毎年西御門コートにおいて行われているが回を追って盛んになり、各クラブの実力も相拮抗し毎年大接戦が演じられており、親睦の点からも大きな効果を上げているものと思われる。

因みにポイント数は、男子ダブルス2、男子50歳以上ダブルス1、女子ダブルス3、混合ダブルス（男子60才以上、女子50歳以上）1の合計7ポイント。

（5）鎌倉市民テニス大会の開催

毎年10月下旬から11月上旬にかけて開かれており、第1回大会は昭和45年に開催され平成18年第37回を数えた。参加資格は鎌倉市テニス協会所属団体

のメンバー及び市内在住、在勤、在学の者。種目はダブルスのみで、一般男子、45才以上男子、55才以上男子、65歳以上男子、一般女子、50歳以上女子、混合、ベテランミックス（合計120才以上）の8種目で行われる。

（6）鎌倉市テニス選手権大会（シングルス）の開催

平成9年第1回大会は「神奈川県選手権」の予選を兼ねて一般男子単、一般女子単の2種目で開始された。その後平成13年より45才以上男子単が新たに加わり、更に平成17年から55才以上男子単が新設され現在は4種目で毎年12月中旬、三菱電機・東レ・中外製薬のコートにおいて開催されている。

（7）全国都市対抗・神奈川県予選

毎年7月に行われる全国都市対抗の県予選が例年4月に厚木市南毛利コートで開催される。一般男子単複・一般女子単複・45歳以上男子複・々女子複・55才以上男子複の7ポイントで争われ、鎌倉市代表選手を選抜して大会に参加している。

（8）親子テニス教室の開催

平成18年8月、当協会主催により第1回親子テニス教室を市営笛田公園コート4面を使用して開催した。午前の部・午後の部合計の参加者は子供59名、大人31名（コーチは澤田誠ヘッドコーチ他計10名）と盛況であった。

平成18年（2006年）12月

（文責 鎌倉市テニス協会理事長 平野健）